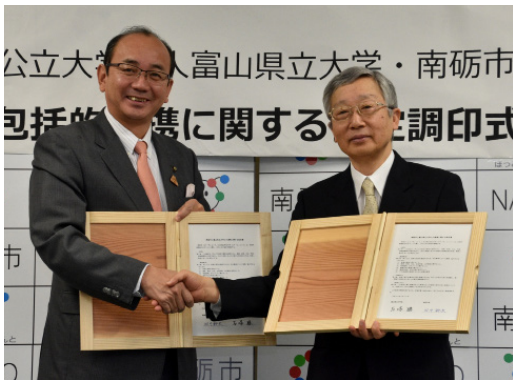
富山県立大学
COCnews
Vol. 7

PICK UP!

## 南砺市との協定＋福原ゼミの活動紹介




平成29年４月18日に、南砺市と富山県立大学が連携協定を締結しました。本学が自治体との連携協定を締結するのは、射水市、高岡市に続いて３例目となります。

南砺市での取組を強化する一環として、南蟹谷（みなみかんだに）地区の高齢化・人口減少に伴う農作業上の課題について、教養教育の福原教授と教養ゼミの学生が携わることになりました。南蟹谷地区では、イノシシ対策用電気柵に関する問題（除草作業が困難で草が柵に触れて漏電してしまうこと）と、ギンナン拾い手不足に関する問題の二つが地域の課題となっています。

今年度前期の福原教養ゼミでは、６月に南蟹谷地区を訪問し、現地視察と地域の方々との意見交換会を実施しました。その後、電気柵に関する課題の解決策を学生が考案し、７月上旬に現地での実証実験を行いました。この実験は、畦畔（けいはん）に地を覆う植物の一種である芝類とイワダレソウ（クラピア）を混植し、雑草繁茂（はんも）を抑制する効果を確かめる、というものです。７月中旬には、学生が地域の方々と協働でイノシシ対策用電気柵の設置作業を行いました。学生は設置作業の複雑さや設置場所の多さに驚くとともに、設置後の維持管理の困難さを実感していました。

後期には、ギンナン拾いの課題解決に取り組みます。

PICK UP!

## 清水ゼミの活動紹介（29年度前期の活動）

教養教育の清水准教授が前年度に滑川市へ地域課題解決事業として提案したプラン『他県から来た県大生が創る「オンライン・ガイドマップなめりかわ』が採択され、平成29年度の教養ゼミにて年間を通じて取り組んでいます。

この事業は、首都圏をはじめ滑川市への20-30代の移住促進の解決策の第一歩として、滑川市の魅力を紹介し、同市を訪れる交流人口を増やすことを目的としています。

今回、清水ゼミ生14名が市内各地を訪れ、地元の人々が先入観や固定概念があって気付くことができない魅力を「県内出身者ではない若者」が中心となって「ひと・こと・しぜん・ばしょ」にフォーカスを当て、現地の視察や取材をしました。その後、得られた情報を「滑川・びっくりスポット（ＮＢＳ）」と題してオンライン・ガイドマップにまとめ、学生が感じたことをネット上で発信しています。

このサイトは現在公開中ですので、興味のある方はぜひご覧になってください。

http://namerikawa-bs.sakura.ne.jp/

文部科学省 地(知)の拠点 Center of Community
地域と県大。「地」と「知」でつながろう！
スイッチ知オン！
富山県立大学 COC事業

[CONTENTS]

■ピックアップ！　1面
■H28後期ＣＯＣ活動報告　2、3面
■H29前期ＣＯＣ活動報告　4、5面
■H29地域志向教育研究費　6面
■ＣＯＣＯＳ　7面
■外部評価会・お知らせ　8面

# H28後期COC活動報告

## san gyo 健康で働くために～富山の産業保健を学ぶ～

上村トピックゼミ

富山県内の企業における「健康づくり・産業保健」をテーマとした調査学習を実施している本ゼミにおいて、平成28年11月18日に株式会社広貫堂を訪問しました。広貫堂は、富山市に拠点を持つ医薬品メーカーとして知られ、過去に「元気とやま健康づくり企業」に入賞したことがあります。企業で行われる健康づくりの取組について、健康管理や労働衛生に関する担当部署の方に学生がインタビューを行いました。学生からは、「心身の健康状態という個人情報を取り扱う上で、積極的介入が難しい点があることが分かった。」や「労災の具体例等についても聞くことができ、現場の実情や課題についての理解が深まった。」などの感想が寄せられました。

## kodo mo プログラミングを学ぶ、教える

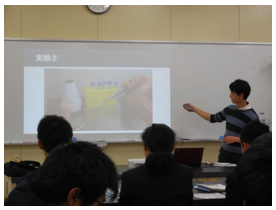
中村正樹トピックゼミ

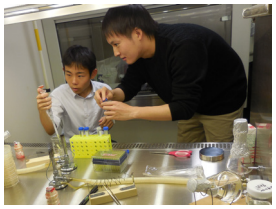
プログラミングを学び、教育を通じた貢献を考える中村ゼミにおいて、学生が中学生にプログラミングの授業を行う取組を小杉南中学校にて行いました。学生は事前に小杉南中学校へ訪問し、先生と話し合うことで、プログラムに難しさではなく、親しみを感じてもらうという方針を決め、初心者でもわかりやすい「Ｓｃｒａｔｃｈ」というプログラミング言語を用いて授業を行いました。当日は、プログラムを臨機応変な人間と比較するなどの工夫で分かりやすく説明し、Ｓｃｒａｔｃｈを用いた演習課題に取り組んでもらいました。授業後のアンケートではおよそ７割が授業を理解してくれたことがわかり、８割の生徒が今後もこのような授業を行いたいと回答してくれました。

## kodo mo 園芸高校での授業支援

畠研究室

小矢部園芸高校と共同研究を行っている環境工学科・畠研究室の学生が、小矢部園芸高校の１年生を対象とした授業「農業と環境」を担当しました。身近なことから農業や環境について考えてもらうよう、担当の島田教頭先生と協働で授業内容を検討し、市販の乳酸菌飲料の菌数を培養して数えるという授業を企画・実施しました。50分連続２コマ授業を２日間、授業は全て学生が進行しました。初日は概要説明と菌の培養作業、２日目は培養後の菌を数える作業を行いました。寒天培地やクリーンベンチの作業が初めての高校生を、学生が一人ひとり丁寧にサポートしました。

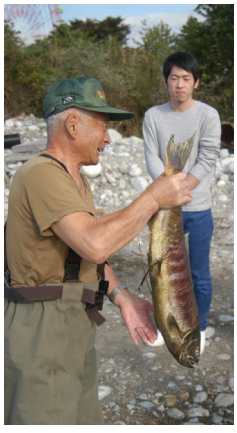




## jizoku サケの生息状況と河川問題

高橋トピックゼミ

近年、土木技術の発展により河川環境は大きく変わり、このことが河川を中心とした自然環境の破壊という現状を生み出しています。このような背景から、本ゼミではサケの生息状況を観察することにより、河川を巡る技術と環境問題について考えることをテーマとしています。本ゼミは11月４日に庄川簗場・増殖場を訪問し、サケやマス、イワナなどの生息数の激減を補うための増殖事業の現場に行きその実態を見学し、説明を受けました。庄川水域の地下水を利用したサケやイワナの増殖事業が、財政難や地下水温の上昇で困難になっている現状を知ることができました。



kore isya

## 音楽療法について考える

森重トピックゼミ

音楽療法は、音楽を聴く・演奏する際の生理的・心理的・社会的な効果を応用して、心身の健康の回復、向上をはかる事を目的とする健康法です。現在、各地で高齢者ケア・引きこもり児童のケアなどの現場で展開されています。地域での実態を調べようと、富山大学名誉教授で音楽療法士でもある海老原直邦先生のご協力の下、音楽療法を取り入れている高齢者施設や心療内科を訪ねました。最初に、高齢者への認知症ケアを行っている木戸クリニックを訪問。音楽療法士の川辺真由美さんによる実践現場を見学しました。ゼミ後半は、心療内科のある佐々木病院を訪問。海老原先生による音楽療法（セッション）に、学生はギターなどの演奏者として参加。「四季の歌」の伴奏をしました。学生達はこのゼミを通じて、音楽療法の可能性（苦痛を伴わない等）や、高齢化などの地域の課題を実感しました。

## 平成 28 年度後期地域協働授業成果発表会

２月２日、３日の２日間、本学大講義室にて平成 28 年度後期の COC 成果発表会を行いました。本学学生や教職員、地域関係者の方々延べ 280 名が参加しました。2 日間合計で 22 のゼミや学生団体からの発表があり、発表テーマは多岐に渡りました。

【第１日】

①「地域の高齢化に伴う自治体負担の軽減を目指した取り組み～ IT 技術を利用した敬老会の実施から～」
　専門ゼミ（情報システム工学科　鳥山 朋二　教授、 唐山 英明　教授）
②「中小企業の魅力発掘と問題解決の提案」 専門ゼミ（知能デザイン工学科　岩井 学　准教授）
③「知られ　ぼくたちわたしたちの射水のまち–見られ映画・まわられスタンプラリー・知られ VR –」
　教養ゼミ（教養教育　原口 志津子　教授）
④「小矢部市の中山間部における大気環境観測Ⅲ」 渡辺研究室（環境工学科　渡辺 幸一　教授）
⑤「ICT を使って中学・高校の英語の授業を支援」教養ゼミ（教養教育　清水 義彦　准教授）
⑥「環境政策研究演習：富山市温暖化対策を例として」
　専門ゼミ（環境工学科　中村 秀規　講師）
⑦「富山の魅力を発見する旅のしおり」 教養ゼミ（教養教育　古澤 之裕　講師）
⑧「TPU marker」（学生団体　Core Creative Manager）
⑨「小矢部市観光促進プロジェクト」（学生自主プロジェクト）
　（情報システム工学科　榊原 一紀　准教授）　※ 27 年度ゼミの継続
⑩「COCOS の一年間」（地域協働研究会　COCOS）

【第２日】

①「万葉線で工作実験『わくわくでんしゃ～つくってあそぼう！～』を運行」
　トピックゼミⅡ（機械システム工学科　小林 一也　准教授）
②「地域の企業経営者より科学技術と社会、技術者としてのキャリア形成について学ぶー YKK 株式会社創業者吉田忠雄氏の足跡と思想の学習を通じてー」 トピックゼミⅡ（教養教育　濱 貴子　講師）
③「河川環境の保全と河川管理について」トピックゼミⅡ（環境工学科　高橋 剛一郎　教授）
④「音楽療法について考える」トピックゼミⅡ （知能デザイン工学科　森重 健一　講師）
⑤「富山の環境にやさしい農業」トピックゼミⅡ（教養教育　古澤 之裕　講師）
⑥「大門企業団地の中小企業の魅力発掘」
　トピックゼミⅡ（知能デザイン工学科　岩井 学　准教授）
⑦「街と里山で考えた地域の未来」（環境工学科　星川 圭介　講師）
⑧「健康で働くためにー富山の産業保健を学ぶー」
　トピックゼミⅡ（教養教育　上村 一貴　講師）
⑨「中学生向けプログラミング授業の調査・提案・実施」
　トピックゼミⅡ（情報システム工学科　中村 正樹　講師）
⑩「砺波市におけるふく福柿の現状」（学生団体　水土里保全研究会）
⑪「星空トロッコ PR 用の星空写真の撮影」（天文部）
⑫「COCOS の一年間」（地域協働研究会　COCOS）

# H29前期COC活動報告

## 大学生による富山県内商店街の課題解決（砺波）

miryo ku

榊原・中村・星川プレゼン演習

富山県内商店街の課題解決を目的としたゼミが、砺波駅前商店街の課題解決に取り組みました。まず始めに、砺波市商工会役員との意見交換と、砺波市の商店街の現地調査を行いました。この二つの取組から、隣接する大型ショッピングモールに利用客が流れていることと、商店街を利用している人の年齢層が高いことなどが課題として上がりました。

次に、これらの課題を解決できそうな活性化案を学生が考え、ポスターにまとめました。そして、車座ミーティングにおいて活性化案を商工会役員の方々に発表しました。案の中には、シャッターにチューリップを咲かせる、コミュニティスペースとしての活用など、学生ならではのアイデアが出ていました。

## 大学生による富山県内商店街の課題解決（南砺）

miryo ku

濱トピックゼミ

星川プレゼン演習・院生

富山県内商店街の課題解決を目的とした本ゼミにおいて、南砺市井波地区と城端地区を対象に活動を行いました。城端地区においては、個別店舗の調査とその報告を行い、後期に行う予定のアンケート調査の項目案について考察しました。井波地区では、学生が商店街を訪れた感想や商店街への提案をまとめ、商店街の方々と車座ミーティングを行いました。商店街の方々と意見交換では、「木彫り目当てに訪れる観光客が商店街には立ち寄らない」「人口減少やチェーン店舗の進出などによって固定客が減少している」という2つの大きな課題を共有し、今後に向けた具体策について話し合うことができました。

## 酵母の工学的利用～食品利用における地域の現場を訪ねる～

san gyo

畠・呉プレゼン演習

酵母の工学的利用を学ぶ本ゼミにて、酵母が地域産業でどのように活用されているかを知る一環として、富山市婦中町のやまふじぶどう園を訪問しました。まず始めに、ぶどうを雨から守るための袋がけ作業を作業担当者と実施しました。その後、ワイン醸造の工程や酵母の具体的な活用方法について、やまふじぶどう園CMOの山藤智子さんより説明していただきました。説明の中では、やまふじぶどう園で醸造されているワインの中に、県立大の酵母を用いている製品もあることを教えていただきました。酵母の活用例を身近に感じるきっかけとなりました。

## 身近な生物多様性を学ぶ

jizoku

鈴木教養ゼミ

身近な生物多様性（植物）について学ぶ本ゼミにて、生物多様性に富む身近な環境である里山の植生を知るべく、黒部市宇奈月町愛本の里山保全団体「愛本夢の里プロジェクト」の協力のもと、その活動フィールド「愛本夢の里」の調査を行いました。代表の水野透さんからレクチャーを受けた後、林内踏査を実施しました。その後、周辺の自然植生についても知るため、入善町にある杉沢の沢スギ林にも立ち寄りました。短時間ではありながら、黒部の扇状地上部と下部の植生を比較することができ、富山県の植物の生物多様性を垣間見ることができました。

anzen

## 富山県の水災害を考える～太田川および坪野川を訪ねて～

呉トピックゼミ

富山県では、独特な地形に伴う洪水リスクや、富山湾特有の寄り回り波などの現象が発生する可能性が指摘されています。富山県の洪水や高波などの水害を考える本ゼミにおいて、富山県が管理する太田川および坪野川を訪れ、富山県が取り組んでいる河川治水工事現場を見学しました。富山土木センターの椙本敏規氏の説明のもと、太田川（富山市赤田）では河川護岸改修工事の現場を、坪野川（富山市婦中町）では橋脚の掘削工事の現場を見学しました。学生にとっては、実際の治水工事現場を目の当たりにすることで、富山県の水災害リスクを知り、減災に向けた様々な取組を理解する大変良い機会となりました。

kore isya

## 高齢者の「転倒・骨折」について考える

上村トピックゼミ

全国的に、介護を必要とする高齢者は数を増しています。その原因は様々ですが、65歳以上の方を対象とした国民生活基礎調査によると、すべての要因のうち約10分の1を骨折転倒が占めていることが分かりました。また、この調査を射水市の高齢者600人を対象に行ったところ、その要因は全体の約5分の1を占めていることが小杉南包括センターの資料より明らかになりました。この現状から、本ゼミでは身近な転倒・骨折を未然に防ぐために地域の65歳以上の男女23名を対象に、転倒・骨折の実態、意識調査を行いました。参加した学生は、工学の知識や技術を使って関われるならどんなことができるか等、自分たちのこととして身近に捉えていました。

## 平成 29 年度前期地域協働授業成果発表会

7 月 27 日、28 日の 2 日間、本学大講義室にて平成 29 年度前期の COC 成果発表会を行いました。本学学生や教職員、地域関係者の方々延べ 300 名が参加しました。

【第 1 日】

①「製造現場が抱える課題解決の提案」
　プレゼンテーション演習（知能デザイン工学科　岩井 学　准教授）
②「オープンデータの利活用案」
　プレゼンテーション演習（電子・情報工学科　松本 三千人 教授、
　岩本 健嗣　准教授）
③「COCTA について」（地域協働研究会 COCOS）
④「高岡市の伝統工芸産業を発展させるには」 プレゼンテーション演習
　（環境・社会基盤工学科　中村 秀規 講師）
⑤「砺波の商店街の課題解決について」 プレゼンテーション演習
　（電子・情報工学科　榊原 一紀 准教授、中村 正樹 准教授、
　環境・社会基盤工学科　星川 圭介 准教授）

【第 2 日】

①「高齢者の転倒・骨折を考える」
　トピックゼミⅠ（教養教育　上村 一貴 講師）
②「南砺市の商店街の活性化について」 トピックゼミⅠ（教養教育　濱 貴子 講師）
③「COCTA について」（地域協働研究会 COCOS）
④「天文部って何しているの？」（天文部）

# 平成 29 年度　地域志向教育研究費　採択一覧

「地域志向教育研究費」は国の「地（知）の拠点整備事業」補助金を活用し、本学学生が県内全域の地域の魅力向上、高齢者への支援、地域の産業発展、子どもの教育支援、持続可能な社会への対応といった地域課題の解決を通して、社会参画力、課題解決力等、を育むことのできる優れた教育プログラムや研究を支援することを目的としています。

| 区　分 | テ　ー　マ | 代　表　教　員 | 地　域 |
|---|---|---|---|
| 地域志向教育プログラム | Co-working でまちなか活性化を目指す地域拠点の有効利用を探る | 教養教育<br>清水義彦　准教授 | 滑川市 |
| | 地域小学生のための英語教室（2017 年度）<br>- グローバル人材育成につながる英語教育支援 - | 教養教育<br>山﨑大介　准教授 | 射水市 |
| | 高校生へのシミュレーション技術指導 | 機械システム工学科<br>中川慎二　教授 | 射水市 |
| | 製造現場が抱える課題解決の提案と実施 | 知能システム工学科<br>岩井学　准教授 | 富山市 |
| | とやま環境フェアでのプラネタリウム工作教室の運営と<br>今後の継続についての検討 | 知能システム工学科<br>松本公久　講師 | 富山県 |
| | 学童保育の場で使用する教育支援システムの作成と<br>それを用いた教育支援の実施 | 電子・情報工学科<br>鳥山朋二　教授 | 高岡市 |
| | 射水市小学校での理科実験 | 医薬品工学科<br>中島範行　教授 | 射水市 |
| | 教養ゼミによる南砺市との包括連携協定の推進 | 教養教育<br>福原忠　教授 | 南砺市 |
| | 教養ゼミによる南砺市南蟹谷地区の地域課題に対する取組 | 教養教育<br>福原忠　教授 | 南砺市 |
| 地域志向研究 | 閉じ込め状態にある高齢者の意思表出に関する研究<br>～看護学・社会福祉学と工学の先導的融合事例～ | 電子・情報工学科<br>唐山英明　教授 | 射水市・高岡市・立山町 |
| | 地方の若年層未定着の問題解決に繋がる地域慣例行事の<br>コスト削減モデル構築 | 電子・情報工学科<br>鳥山朋二　教授 | 射水市 |
| | 呉東地域での若者の交流事業および情報技術啓蒙を目的とした<br>情報技術アートイベントの開発・開催・参加 | 電子・情報工学科<br>中田崇行　准教授 | 黒部市 |
| | 自然教育方法の確立を目的とした児童の位置及び顔向き検出システムの開発 | 電子・情報工学科<br>中田崇行　准教授 | その他<br>(NPO 法人) |
| | 大型裸眼立体ディスプレイを用いた富山県の観光コンテンツ収集および<br>演出プロジェクト | 電子・情報工学科<br>西原功　助教 | 高岡市 |
| | 布施川における河川環境回復に関する基礎研究 | 環境・社会基盤工学科<br>高橋剛一郎　教授 | 富山県 |
| | 小矢部市の中山間地域における廃校を利用した大気環境観測<br>- 中山間地域の安全・安心のための情報提供 - | 環境・社会基盤工学科<br>渡辺幸一　教授 | 小矢部市 |
| | 植物性廃棄物の高度・多面的資源化と再利用に関する研究 | 環境・社会基盤工学科<br>奥川光治　准教授 | 射水市 |
| | 現代の地域ニーズに根差した商店街の形成に向けた<br>アンケート調査の実施 | 環境・社会基盤工学科<br>星川圭介　准教授 | 南砺市 |
| | 森林資源の多面的な評価のための基礎的調査 | 環境・社会基盤工学科<br>立花潤三　講師 | 黒部市 |
| | 低炭素型まちづくりとコンパクトシティ政策に関する診断と処方箋づくり | 環境・社会基盤工学科<br>中村秀規　講師 | 富山市 |
| | ドローンによる空撮技術・地理情報を活用した山林・森林管理システム構築<br>の実証実験 | 電子・情報工学科<br>岩本健嗣 准教授 | 南砺市 |

| 学生自主プロジェクト | テ　ー　マ | 学生団体（代表者） | 地域 |
|---|---|---|---|
| | わくわく体験　～ひまわりの種から油を搾ろう～ | ひまわりサークル<br>電子・情報工学科 2 年<br>朝倉弘達 | 射水市 |
| | 富山県内のトイレのオープンデータ化を促すための富山県立大学内<br>トイレ web の開発及びその開発を支援するプラットフォームの開発 | Core Creative Manager(CCM)<br>情報システム工学専攻 2 年<br>伊達伸之輔 | 富山県全域 |
| | 星空トロッコＰＲ用の星空写真の撮影 | 天文部<br>電子・情報工学科 2 年<br>天野駿 | 黒部市 |
| | 古民家カフェでの通年イベントによる地域交流 | 地域協働研究会 COCOS<br>電子・情報工学科 3 年<br>土屋樹 | 射水市 |
| | いみず祭りへの出展 | 地域協働研究会 COCOS<br>電子・情報工学科 3 年<br>土屋樹 | 射水市 |

# 地域協働研究会ＣＯＣＯＳ

## 入善町PR事業

入善町は近年、人口が減り続けており、町はそれを止めようと様々な取り組みを行っています。その取り組みの一環の「言・学・官連携地方創生事業」として、北日本新聞社（言）、地域協働研究会ＣＯＣＯＳと富山大学の学生団体「まちなかメイクアップサポーター」（学）、入善町（官）が連携し、入善町の魅力を紹介する動画制作に取り組みました。

動画の作成に当たり、２０１６年（平成28年度）10月にＣＯＣＯＳとまちアップで入善町にて現地の視察を行いました。交流施設のうるおい館にて入善の概要を学んだ後、沢スギ自然観察公園や下山芸術の森などを訪ね、入善町の現状について学び、同時に動画の撮影場所についても検討しました。

動画作りの目的は移住・定住であり、その目的を達成するために、まず町を知ってもらう必要があることを話し合い、動画の方針を決めました。次に、学生がそれぞれ作成した絵コンテを発表し、ミラーレテレビの方から内容や撮影の観点から評価をいただきました。その結果、それぞれ異なる立場の若者が交流宿泊施設いろり館へ集まり、入善での生活を体験するというドキュメントムービーを撮影することになりました。

そこから更に学生から役者やディレクターを選抜し、ミラーレテレビの方に撮影のヒントを教えてもらいました。撮影は平成29年1月初旬に2日間を通して行われ、ＣＯＣＯＳは制作監督や出演者などとして動画に携わりました。完成した動画は動画投稿サイトＹｏｕｔｕｂｅの『行っトコ入善！』チャンネルにて『ＮＹＵＺＥＮ ＨＯＵＳＥ』というタイトルで公開されています。ぜひ一度動画をご覧ください！

## いみず祭り

射水市は合併して今年で12年になりますが、旧市町村間の壁はまだまだ厚いと言われています。そこで射水青年会議所が主体となって、射水を一つにしたいという思いを達成するため、だいもんグリーンパークにて「第３回いみず祭り」を開催しました。

ＣＯＣＯＳは主催の射水青年会議所と第１回いみず祭りの時から協働させていただいています。今年度もお誘いを受け、今回は「ＣＯＣＯＳ ＳＣＯＵＴＩＮＧ ＣＨＡＬＬＥＮＧＥ」と「エンドロール」を企画・実施しました。

「ＳＣＯＵＴＩＮＧ ＣＨＡＬＬＥＮＧＥ」とは、参加者がマシンの前に配置してあるボタンを押すと、マシンの画面内にルーレットが表示され、そこで与えられたお題に関する人や物を会場内から探し出すことによって、普段関わりのない人とちょっとしたきっかけで交流することができるという企画です。

ボタンやマシン等の制作に際しては、機械システム工学科の日比野敦准教授や、ＣＯＣＯＳ顧問の岩本健嗣准教授をはじめ、研究室の学生複数名にアドバイスをいただきました。当日参加者は人や物探しに楽しそうに取り組んでおり、感想を聞くと楽しかったという声を多くいただきました。

また「エンドロール」は、いみず祭りの様子を動画にまとめて、祭りの最後に上映する企画です。いみず祭り当日の動画や写真を使うため、前準備としてあらかじめ「エンドロール」の流れを作っておき、当日は祭りの様子を撮影し、その場で写真を組み込んで５分程の動画を完成させました。完成したものは祭りの最後の企画として会場のスクリーンに映し、終了後には大きな拍手をいただきました。

# 外部評価会

平成 29 年 3 月 16 日､本学のＣＯＣ事業にご協力いただいている公的機関や企業､団体の方々をお招きして、平成 28 年度の外部評価会を行いました。今回も様々なご意見ご提案をいただきました。今後の事業展開へ活かしていきたいと思います。

●日時：平成 29 年 3 月 16 日（木）15:00 ～ 15:50
●場所：本学　本部棟 7 階会議室
●出席者：

| | |
|---|---|
| 射水市企画管理部政策推進課 課長補佐 | 中川一志 |
| 高岡市都市経営課　主幹 | 日名田尚明 |
| (公社) 射水青年会議所　専務理事 | 青井忠嗣 |
| 富山河川国道事務所　副所長 | 齋藤　充 |
| (株) スギノマシン 総務・人事グループ長 | 清水宏記 |
| (NPO) 高岡ディスカバー協議会　理事長 | 水越益夫 |

【本学】
学長（石塚）、副学長（松本）、学生部長（中村）、ｷｬﾘｱｾﾝﾀｰ所長（中島）、COC統括ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ（奥田）、COCｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ（堺）、COCOS代表（榊原）、事務局長（田中）、教務課課長（村山）、主幹（中谷）、係長（上田）、主任（社浦）、主事（長井）

●主な意見
・学生の地域での取組は地域にとって財産。今後、市の PR、公共施設の活用などにも学生に関わってもらいたい。
・今後も地域を活動フィールドとして更に活用してもらいたい。
・COCOS との活動を通じて、学生の成長を感じられることがとても喜ばしい。今後も一緒に活動していただきたい。
・人材確保（インフラ整備の担い手等）においても、地域と大学との連携は重要。
・地域協働授業を受けた学生と受けていない学生の違い（就職率など）を比較できれば、学生が COC 事業にもっと関心を示すのではないか。
・COCOS の事を地域で耳にするようになった。COCOS の認知度が上がっていて素晴らしい。

## お知らせ ～ information ～

学内の皆さまへ

### COC の学生アシスタント　COCTA 大募集！

地域協働授業（COC の授業）をサポートする学生アシスタント COCTA（ｼｰｵｰｼｰﾃｨｰｴｰ）を募集中です。現在 COCOS の有志メンバー数人で行っていますが、今後に向けて、さらにメンバーを増やしたいと考えています。ご興味のある方は、地域協働支援室または COCOS までお問い合わせください！

【仕事の概要】
①内容：地域協働授業に参加して教員や学生のサポートをしたり、授業準備や授業後の報告書類作成などを行います。
②時間と場所：各自の空き時間や平日 17 時～ 19 時、各ゼミの教室や地域協働支援室にて行います。

### 学生による大学・地域のニュースサイト「TPU marker」

TPU marker（ﾃｨｰﾋﾟｰﾕｰ・ﾏｰｶｰ）は、本学の学生が記者となって、大学やその周辺の出来事を記事にして公開しているニュースサイトです。本学の学生団体 Core Creative Manager（CCM）が開設・運営しています。既に 100 件以上の記事を公開しており、人気の記事となると一日で 200 件のアクセスがあります。TPUmarker へは、下記 URL または左記 QR コードよりアクセスすることができます。学内外問わず、皆様ぜひチェックしてみて下さい！
http://tpumarker.net/

地域と県大。「地」と「知」でつながろう！
スイッ知オン！
富山県立大学 COC事業　TPU Switch On! Project

公立大学法人富山県立大学　地域協働支援室
http://www.pu-toayam.ac.jp/coc/
〒 939-0398　富山県射水市黒河 5180
（環境工学科棟　3 階　I-333 室）
TEL:0766-56-7500（内線 255）FAX:0766-56-8022
E-mail:coc1@pu-toyama.ac.jp
編集：地域協働研究会 COCOS　　発行：平成 29 年 12 月